

教育ファームねっとにアクセスしよう

教育ファームねっと

検索

今年是全国117団体
モデル実証地区



事業概要および協力団体
一覧

いま、教育の場として
田んぼや畑がおもしろい！
現地レポート



全国からのとれたて取材報告

知らなきゃ損する実践の勘どころ



「教育ファーム」あっちの話こっちの話

お問い合わせ先



(社)農山漁村文化協会 「教育ファーム推進事業」事務局

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

TEL. 03-3585-1144 FAX. 03-3585-3668 E-mail: f-edufarm@mail.ruralnet.or.jp

平成21年度 農林水産省にっぽん食育推進事業「教育ファーム推進事業」

いますぐダウンロード！
お役立ち教材・資料



指導者向け「実践ファイル」と、
子ども向け「ワークシート」を、
無料でダウンロードできます

<http://www.edufarm.jp/>

食農融和シンポジウム 開催要領 平成21年度担い手総合支援事業

食育・食農活動は今

平成21年10月14日(水)～16日(金)

東京ビックサイト東展示棟3ホール グルメ&ダイニングスタイルショー秋2009 キッチンステージ

食べものとなる動植物が育つためには、一定の時間と空間も必要であり、農業者がいくら努力しても、工業製品のように100%均質な規格品ができるわけではありません。いまの食生活では、「自然の摂理」のなかにある食の根源的なあり方さえ、忘れられ始めているのではないのでしょうか。

3日間にわたるシンポジウムでは、農業経営者とテーマに沿ってゲストを迎え、現在行われている取組み事例を紹介するとともにパネルディスカッションを行い、食育・食農活動への思いや農業法人への期待などを紹介します。

プログラム

10月14日(水) 13:30～15:00	[テーマ] 食農教育を通じて農業者が伝えられること
10月15日(木) 13:30～15:00	[テーマ] 教育ファームによる食農体験学習とは
10月16日(金) 13:30～15:00	[テーマ] 農から食べいま農業の本質を伝えたい

主催:(社)日本農業法人協会・全国担い手育成総合支援協議会、(社)農山漁村文化協会、(株)ビジネスガイド社

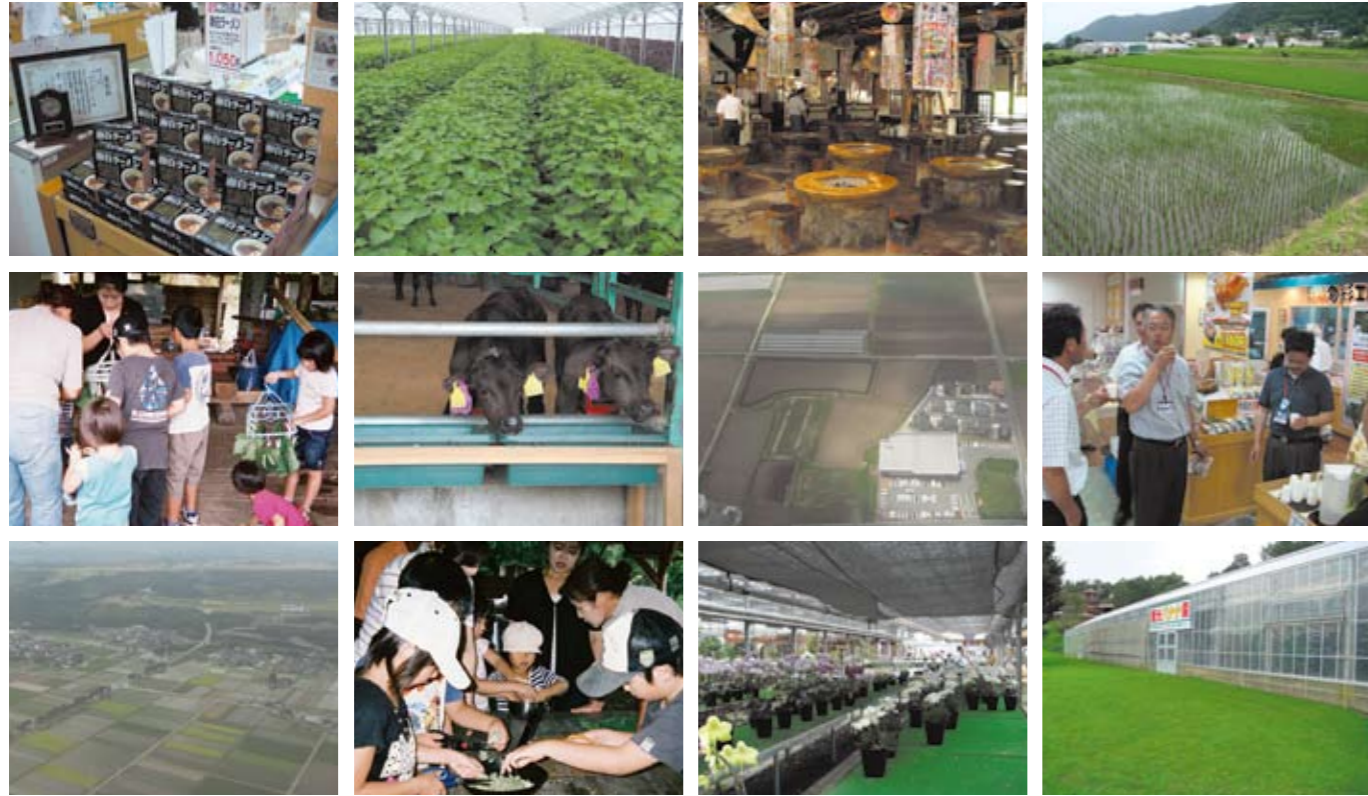


事務局:(社)日本農業法人協会 政策課

〒102-0084東京都千代田区二番町9-8中央労働基準協会ビル1F

(TEL)03-6268-9500 (FAX)03-3237-6811 (HP)<http://www.hojin.or.jp>

プログラム 10月14日(水), 10月15日(木), 10月16日(金)



10月14日(水)

食農教育を通じて 農業者が伝えられること

学校教育関係者から教育現場で行われている食育活動の事例を報告し、農業者の意見を交えたパネルディスカッションを行います。

プログラム

- 13:30 開会 あいさつ
- 13:40 取組み事例報告・パネルディスカッション
【事例報告・パネリスト】
大城浩明
武井尚一
見城美枝子
【コーディネーター】
紺野和成
- 15:00 閉会

大城 浩明

沖縄県農業法人協会会長、沖縄県：(有)トロピカルファームたまぐすく代表取締役
1952年沖縄県南城市玉城生まれ、沖縄大学商経学部、昭和50年藤江稔弁理士事務所、昭和52年JA沖縄県信連入会：兼業でJA理事、平成14年(有)トロピカルファームたまぐすく設立(果樹栽培、直売店、加工、グリーンツーリズム)。平成19年より沖縄県農業法人協会会長。

武井 尚一

(社)日本農業法人協会副会長、群馬県：(有)武井農園 代表取締役
1945年群馬県生まれ。高崎商高卒。都内で会社勤めの後、39歳で就農。1997年(平成9年)より富岡市認定農業者会長。平成8年から群馬県農業法人協会に加入し、平成10年有限会社武井農園設立。平成17年優良認定農業者として農林水産省経営局長より表彰される。平成19年より群馬県農業法人協会会長。

見城 美枝子

青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリスト
早稲田大学大学院理工学研究科修士修了。同博士課程単位取得。TBS アナウンサーを経て、フリーに。海外取材を含め56ヶ国訪問。
現在、青森大学社会学部教授。建築社会学、メディア文化論、環境保護論を講義中。著作、対談、講演、テレビ等で活躍。リヨン社より“会話が上手になりたいあなたへ”好評発売中。

紺野 和成

(社)日本農業法人協会専務理事
1961年福島県生まれ。高崎市立高崎経済大学経済学部卒。1985年農林漁業金融公庫入庫。本店調査室主任調査役、融資業務部食品産業課長、顧客支援部副部長等を経て、2008年7月、日本農業法人協会専務理事へ出向。特定非営利活動法人日本食レストラン海外普及推進機構理事。

10月15日(木)

教育ファームによる 食農体験学習とは

教育ファームとは、生産者(農林漁業者)の指導を受けながら、作物を育てるところから食べるところまで、一貫した「本物体験」の機会を提供する取組み。その現場で行われている事例を紹介し、食農体験の普及・拡大に向けた課題とは何かをテーマにパネルディスカッションを行います。

プログラム

- 13:30 開会 あいさつ
- 13:40 取組み事例報告・パネルディスカッション
【事例報告・パネリスト】
萩原さとみ
広野 正則
藤田 毅
大山 貴司
【コーディネーター】
栗田 庄一
- 15:00 閉会

萩原さとみ

埼玉県：ファーム・インさぎ山 代表
1997年より自宅を開放して、親子体験農園「かあちゃん塾」「ファーム・インさぎ山」開設。野菜づくりを基本に味噌づくりや伝統文化、郷土料理、昔あそびなどを取り入れる。
“食育は農業体験から”をモットーに、長い間培われ、育て上げられてきたよき農村文化を発信していきたいと考える。

広野 正則

香川県農業経営者協議会法人部会副会長、香川県：(有)広野牧場 代表取締役
酪農教育ファーム認証牧場として、小学校等の教育機関と連携をとり、農業体験や生命を題材にした教育活動を推進。また、田舎暮らしを体験できる宿泊型のグリーン・ツーリズムを実施している。牛との触れ合いを通して、命の大切さ、自然環境の重要性を学ぶことができる農場を経営。平成21年5月より地域交流牧場全国連絡会副会長。

藤田 毅

(社)日本農業法人協会監事、新潟県：(有)フジタファーム 代表取締役
1956年新潟県生まれ。昭和54年帯広畜産大学を卒業後一年間の牧場実習を経て就農。平成3年(有)フジタファーム；酪農業を設立。平成10年、(有)米工房いむろ：米の生産と販売を三戸で設立。平成15年(有)レガロ：アイスクリームの製造販売を設立。平成21年5月より地域交流牧場全国連絡会会長・平成21年6月より日本農業法人協会監事。

大山 貴司

農林水産省消費・安全局消費者情報官補佐(教育ファーム推進班)
1961年埼玉県生まれ。行田高等学校卒
昭和54年関東農政局埼玉統計情報事務所で農林水産統計調査を担当。平成11年に農林水産省に異動、13年4月東北農政局、15年4月静岡統計情報事務所、16年4月山梨統計・情報センターを経て、平成17年4月消費・安全局に配属、平成20年10月より教育ファーム推進を担当。

栗田 庄一

(社)農山漁村文化協会 常務理事
1944年山形県酒田市生まれ。茨城大学農学部卒。1966年(社)農山漁村文化協会入会。「現代農業」編集部次長、マルチメディア部長等を経て、2006年常務理事。地域に根ざした食育推進協議会事務局長、教育ファーム推進全国協議会幹事、地産地消推進情報提供企画検討委員、日本食育学会常任理事。

10月16日(金)

農から食へ いま農業の本質を伝えたい

農業現場で行われている食農活動や外食産業の取組みを紹介し、食のあり方を改めて問い直すことを目的としたパネルディスカッションを行います。

プログラム

- 13:30 開会 あいさつ
- 13:40 取組み事例報告・パネルディスカッション
【事例報告・パネリスト】
河崎妙子
堅島五兵衛
藤井浩太郎
【コーディネーター】
榎田みどり
- 15:00 閉会

河崎 妙子

レストランプロデューサー
鳥取県生まれ。短大卒業後、東京新聞ショッパー社でタウン紙の編集。87年の独立後はフード・コーディネーター、ライターとして「日経流通新聞」、「日経レストラン」などにレギュラー執筆し、プロデューサーとしても活動。現在はファミリーレストラン、カフェレストラン、居酒屋、バー、ホテル、旅館など主に個人店を中心に店舗開発を手がけている。また、食を通しての全国のまちづくりアドバイザーとしても活動。女子栄養大学、および専門学校などの講師も務める。

堅島五兵衛

大阪府農業法人協会会長、大阪府：(有)杉農園代表取締役
1945年、数百年前から代々続く農家の長男として生まれる。近畿大学農学部に進学。当時は経済の高度成長期、農業は斜陽産業と言われたが、好きな農業をやりたいと大阪府立大学研究生を経て就農。同時に農園「杉・五兵衛」を設立。園内で時々の旬の農産物を料理した食事を提供することで、生産・加工・販売をすべて一貫して行う農業経営を始める。また「野菜作りをとおして安らぎや幸せを感じてもらいたい」と「食農体験塾」を設立している。平成18年には大阪府の「農の匠」に認定される。平成13年より大阪府農業法人協会会長。

藤井浩太郎

(社)日本農業法人協会理事、岡山県：芳井殖産(株)専務取締役
1961年岡山県生まれ。興譲館高等学校、京都学園大学卒。横浜で不動産販売、大阪でファミレス、岡山でおもちゃ、雑貨などを経験し、平成6年家業を継ぐ。平成7年芳井殖産株式会社設立。昭和55年設立の(農)芳井ボートリー(農場は法人として認定農業者)をゲージ飼育から平飼い切替、現在約一万羽飼育。岡山から関西方面を中心に平飼い卵、平飼い卵の加工品を出荷。平成19年より岡山県農業法人協会会長・(社)日本農業法人協会理事。

榎田みどり

農業ジャーナリスト
1960年秋田県生まれ。東大仏文科卒。学生時代から農村現場を歩き、消費者団体勤務を経て90年よりフリージャーナリスト。農業・食・環境問題をテーマに、一般誌、農業誌などで執筆。農政ジャーナリストの会幹事。日本農業賞特別部門「食の架け橋賞」審査員。共著に「安ければそれでいいのか?!(コモンズ)「雪印100株運動」(創森社)など。